特集 地域で健やかに暮らしていただくために

～地域医療の先進的な取組～

日野郡で暮らしておられる皆さんにとって、いつまでも元気で生活すること、また、手助けが必要な人を地域でサポートすることは、とても大切なことだと思います。

いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすという皆さんの願いに応えるためには、病気の時だけ病院で治療をするのではなく、暮らす地域そのものに医療が関わっていくことが求められます。

日野郡は、昔から「地域医療」の先進的な取組が行われている地域です。地域の皆さんに安心して暮らしていただくために日南病院、日野病院、江尾診療所が行っている取組について紹介します。

問 日野振興局 地域振興課　電話:0859-72-2086　FAX:0859-72-2072

日南病院「町は大きなホスピタル」

昭和60年頃から、当時の安東良博院長が患者さんの自宅まで風呂桶を担いで行って入浴させるなど、先進的な地域医療を実践してきました。

「町の道路は病院の廊下、各家庭は病院のベッド、各家庭の電話はナースコール」という高見徹名誉院長の理念のもと、病院の外に職員が出かけて行って、住み慣れた家で治療することで、自立した生活が困難な住民の方を地域で支えるという地域医療を実現しています。

現在は、20年以上日南病院で外科医として勤務されてきた平岡裕院長が、たとえ寝たきりになっても安心して暮らせる地域を目指して、この方針を継承しています。

【日南病院の概要】
・昭和37年日南町国民健康保険日南病院として開設
・救急告示病院 99床
・救急告示病院　2床
・年間延べ患者数（平成28年度）
外来2万2千人、入院2万2千人

理念を実践するため訪問診療する高見名誉院長

日南病院の取組

日南病院が最も重視するのは、地域の状況を把握することです。そのために週1回、医師全員、看護師、保健師、介護ケアマネージャー、社会福祉士など約30名が参加する在宅支援会議を開催して、どのような病気の人がどこに住んでいるかなど、住民の生活情報の共有や医療需要の把握を行っています。

「新聞を読まなくなった。ご飯を食べていないようだ。服装がおかしい。」など集落からの情報も大切で、認知症の芽が出たときから行政が対応を検討できます。（平岡院長）

地域の状況を把握したら、在宅治療であっても、いつでも日南病院が対応してくれるという安心感を住民の方に持っていただくよう訪問診療・訪問看護などの支援を続けます。

通院が困難な患者さんの家を訪問すると「先生の顔を見るだけでほっとする。」という方も多いそうです。患者さんの診察や予防接種だけでなく、介護している家族の健康状態にも気を配っています。

「現在行っている地域医療をしっかり継続していくことにより、住民の信頼を得て、医療、保健、介護など町の行政部門を加えた総力戦ができる地域に変わります。」と高見名誉院長は熱い思いを持っています。

週1回の在宅支援会議

訪問診療する平岡院長

訪問看護

日野病院「出かける医療　近づく医療」

公共交通機関の少ない地域では患者送迎車で自宅から病院まで送迎を行い、来院が困難な患者さんの訪問診察や訪問リハビリに力を入れています。在宅治療であっても日野病院は途切れることのないサポートにより、患者さんの生活の質の改善を担保しています。また、無医地区の日野町黒坂と伯耆町二部には診療所を開設しており、中山間地域の基幹病院としての役割を担っています。

孝田雅彦院長は、「特殊な病気以外はこの中で診断して治療ができるという病院であり続けたい。過疎地の病院だからといって医療の質を落とすわけにはいかない。」との思いで取組んでいます。

鳥取大学の学生にレクチャーを行う孝田院長

【日野病院の概要】
・始まりは、日野町、江府町、田舎西町（現在の伯耆町）で構成する日野郡病院組合として設立された
・病床数150床
・入院患者数　平成28年度　10人
・外来患者数　平成28年度　1日平均　2千人
・年間延べ患者数（平成28年度）
外来4万3千人、入院2万2千人

日野病院の取組

日野病院は郡内で唯一のMRIや無菌手術室など基幹病院としての機能を備え、専門性の高い治療だけでなく、「日野病院に行けば何でも診てくれる。」と言われる程幅広く総合的な医療を提供しています。先進的な取組として、高齢患者の負担軽減のため、MRIを活用して癌再発検査を実施しています。

来院が困難な患者さんの訪問診察の際にも小型タブレット型超音波装置を用い、在宅で肺炎、心不全、脱水症などの幅広い診察を行っています。

入院時も、在宅で生活できるよう医師、看護師、保健師、理学療法士など様々な職種のスタッフが退院に向けて会議やサポートを行うなど、在宅復帰への支援も充実しています。このように日野病院は、町の行政と一体となって住民が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう地域医療を行っています。

在宅医療へ向けたリハビリに関する検討会

訪問診療

訪問販売車と一緒に回って健康状態を把握する「看護の宅配便」

地域を支える日野病院と鳥取大学地域医療学講座との連携

鳥取大学医学部内の谷口教授の講座研究室

地域医療総合教育研修センターは、「地域医療学講座」の教育サテライトとして平成26年度に日野病院内に設置されました。

本講座を担当する谷口晋一教授はじめ講座に所属する医師が診療を行うほか、鳥取大学医学部の学生は全員日野病院で病気を診るだけでなく、家族や生活状況などその患者さんのあらゆる背景を考慮したうえでの医療を学ぶことができます。

谷口教授は、「近い将来、総合診療医（全体的な健康問題に向き合って治療を行う医師）が地域のリーダーシップをとって、高齢、独居、認知症の問題に取り組む時代が来ることが予測されます。そのため、訪問看護ステーション、リハビリ施設などの人的資源をみながら作戦を組み立てられる医師が地域に必要になります。地域医療学講座は、そのような医師を育てる役割も担っています。」と将来の展望を示してくださいました。

また、本講座所属の朴大昊（パク・テホ）助教は、「日野病院は県内でもトップクラスの地域医療を実践し教育することができる病院です。」と述べています。

左から朴助教・谷口教授・鳥取大学の学生（日野病院内にある研修センター）

江尾診療所「とことん! 住民に寄り添う医療を目指して」

～保健・医療・福祉の連携による「命」と「健康」を守る砦～

専門化した医療で一部を切り取るように治療するのではなく、病気を抱えた家族、仕事、生活などの背景を含めた実情を踏まえないと地域を守り切れないと考える武地所長が、江府町の地域医療を担っています。

江尾診療所の目的は、江府町で地域医療の充実を図ることと、地域医療を担う後継者を育てることです。訪問診療に力を入れ、患者さんの健康だけでなく食事や生活環境についても気配りを欠かさない武地所長は、江府町の皆さんにとってなくてはならない存在です。

訪問診療する武地所長

【江尾診療所の概要】
・始まり30年に町身の第三診療所が開設されたのが始まり。
・平成29年に民間野末所長が赴任。
・人口1万3千人（平成28年度）、年間延べ患者数は約1万2千人（平成28年度実績）。

江尾診療所の取組

町民の半数以上の方が江尾診療所のかかりつけで、そのうち大半の方が75歳以上です。特に85歳以上の患者さんのうち半数以上の方は、身体や認知機能が衰えてきて自立した生活が困難になっている上、高血圧をはじめ複数の病気を抱えているそうです。そのため、高齢化の進んだ中山間地域では、様々な症状を総合的に診ることができる武地所長のような医師が特に必要とされています。

そこで、江府町と江尾診療所では鳥取大学の学生たちに生活の場でいのちと健康を守る活動を学ぶ機会を提供し、地域医療の総合的なマインドを持つ医師の育成を行っています。地域医療を担う次世代の医療者を育て、住民の皆さんがいつまでも安心して暮らせる地域づくりを行うのも江尾診療所の目的の一つで、鳥取大学地域医療研究部との結び付きを重視しています。

さらに、2か月に1回、患者さんの現状や課題について町長やスタッフを含めた意見交換で情報共有を図り、行政と一体となって住民の方に安心して暮らしていただけるよう取組んでいます。

月例医科ミーティング

鳥取大学地域医療研究部のメンバーを指導する武地所長

地域医療を目指す学生が集まるサークル　～鳥取大学地域医療研究部～

地域医療研究部では、江府町において集落単位で健康について一緒に考える活動を通じ、田植えや稲刈り、江尾十七夜などにも参加して、住民の皆さんとの信頼関係を育み、地域の健康問題の抽出や健康づくりの提案を行ってきました。また、江尾診療所の武地所長に一定期間密着して診察や訪問診療を体験する「武地先生密着ツアー」も行われてきました。

学生達が驚くのは、雪の中を自ら車を運転し訪問診療を行う武地所長の姿です。独居、寝たきり、認知症という重い症状の患者さんの家を訪問した際、時には食事のお世話、おしめ換え、ストーブの給油など、病気の原因となる環境そのものを変えるために行動する姿に地域医療の神髄を見る思いをする学生が多いそうです。

顧問の大槻均准教授（感染制御学講座医動物学分野）は、「このサークルの活動により、地域医療という言葉は、実際の生活を持つ人々の『病気から生活を切り離さない医療』であることに思い当たるはずす。」と述べています。

近藤助教（左）、大槻准教授（右）

歴代部長

●近藤陽子 助教（感染制御学講座医動物学分野）
「このサークルで地域医療を学んだ学生は、地域医療学講座を志望する人が増えてきています。武地先生もサークルのOBです。」
●現部長 医学科3年 高見啓一さん
「武地先生は患者さんの生活、家族、歴史を重視していて、カルテより人との関係を大切にしていると感じました。」
●前々部長 医学科6年 吉田つばささん
「江府町で認知症の予防のための運動として散歩を行った結果、サークルが交流の場となり相乗効果があったという意見を住民の方からいただき、嬉しく思いました。」

地域医療を守って

全国平均を上回る速度で人口減少と高齢化が同時に進む日野郡だからこそ、手助けが必要な状態になっても安心して暮らせる地域を目指し先進的な地域医療への取組が進められてきました。

より高度で専門的な医療が必要な場合は鳥取大学附属病院や山陰労災病院など他地域の病院に協力をお願いするなど、住民の皆さんの健康を守るための“ネットワーク”が構築されています。

この先進的な地域医療を守って、日野郡でいつまでも安心して暮らしていただくことを願っています。